

2021年度 需要実績見込

(一社)日本塗料工業会 事務局作成

2021年度は、主要メーカーへの需要動向アンケートの結果及び2021年12月までの経産省統計値から、塗料需要の実績見込を前年度比101.6%（1,174千トン）と見込む。

前年度実績値（2020年）はVOC排出実態調査から得られた推計値1,155千トンを使用。

需要産業区分	予測数量 (千トン)	前年度比	前年度比算出根拠（メーカーコメント参照）	
建 物	320	106.3%	原料価格の高騰や職人不足の影響も受けたが、改修需要ならびに新設需要も回復傾向にある。	
建築資材	66	106.3%	住宅需要増により建材関連向けが堅調に推移し、回復傾向にある。	
構造物	70	101.1%	プラント等の民間需要は低調であったが公共工事が下支えし、ほぼ前年度並みの予想。	
船 舶	88	85.7%	新造船需要が低迷した。修繕船需要についても入渠遅れ等が発生しており、厳しい状況となった。	
道路車両	新車	185	100.7%	第1四半期は回復傾向にあったが、第2四半期以降電子部品材料の供給不足から自動車メーカーの生産調整等により需要が低迷し、回復は鈍化。ほぼ現状維持となる見込み。
	補修	31	101.8%	新車販売の低迷等によりボディショップへの在庫数減が懸念されたが、コロナ禍からの回復による自動車利用の機会も増え、現状維持の見込み。
電気機械	27	100.2%	第1四半期は家電、電子機器等が好調に推移したが、第2四半期以降、半導体不足の影響が顕在化した。設備投資見送りも発生しており、ほぼ横ばいとなる見込み。	
機 械	49	110.7%	建機・農機・工作機械は旺盛な輸出需要により堅調に推移し、前年を大きく上回り、コロナ禍前の水準に近づく見込み。	
金属製品	98	106.5%	鋼製建具や物置・給湯器等の需要増により前年を上回り、コロナ禍前の水準に近づく見込み。	
木工製品	13	104.6%	家具向け塗料が好調に推移し、昨年より数量増となった。	
家庭用	27	92.9%	昨年度巣ごもり需要で好調であった家庭塗料は、その反動で前年度比減少となる見込みである。	
輸 出	56	100.3%	コンテナ不足による納期遅延など物流の混乱が継続しているが、ほぼ現状維持を見込む。	
路面標示	65	99.9%	公共工事はコロナ禍の影響を大きく受けず、ほぼ前年並みの予想。	
その他	78	97.8%	原料価格高騰の影響もあり、全般的には若干の前年割れとなる見込み。	
合 計	1,174	101.6%	工業用・住宅関連の回復は顕著にみられ、全体的には前年から増加傾向であったが、オミクロン株の影響や半導体等の部品不足が足かせとなり途中で需要回復の勢いは鈍化し、ほぼ現状維持となった。	

2020年度出荷数量推計値1,155千トンは「2021年塗料製造業実態調査」表5-4-1の塗料出荷数量と、希釈シンナー量（「2020年度塗料からのVOC排出実態推計まとめ」のシンナー希釈率により算出）との和により求めた。

2022年度 需要予測

(一社)日本塗料工業会 事務局作成

2022年度は、公表されている政府、民間の経済見通し及び主要需要産業の2022年度の景気動向予測、並びに主要メーカーへのアンケート結果から前年度比104.5%（1,226千トン）と予測した。

2021年度需要実績見込の予測数量を1,174千トン（前年度比101.6%）として計算。

需要産業区分	予測数量 (千トン)	前年度比	前年度比算出根拠（メーカーコメント参照）	
建 物	331	103.3%	首都圏の再開発案件増や住宅改修物件の堅調な推移も期待され、コロナ禍前の状況に回復すると予想される。	
建築資材	69	104.3%	新築住宅着工件数は微増傾向が予想され、市況も徐々にではあるがコロナ禍前の状況に近づくと期待。	
構造物	72	102.0%	社会インフラの改修事業に伴う需要増加が見込まれるため、緩やかな回復が期待される。	
船 舶	93	105.0%	新造船需要は厳しい状況が続くと予想されるが、修繕船需要の回復に期待する。全体的には昨年度の落ち込みからの回復が見込まれるが、コロナ禍前のレベルには至らない予想。	
道路車両	新車	211	114.2%	半導体不足が緩和され、新車生産台数回復による需要が増加していくと予想。
	補修	31	100.9%	従前からの安全装置の普及による在庫車数の減少は継続するが、ほぼ横ばいを予想。
電気機械	29	106.1%	産業の回復による需要増が見込まれる。但し、コロナ禍前のレベルには至らない予想。	
機 械	50	101.4%	建機・農機・工作機械を中心に堅調に推移すると予想され、ほぼ現状維持見込み。	
金属製品	101	102.8%	金属部材用の需要は好調が継続すると見込まれ、概ねコロナ前のレベルに回復すると予想。	
木工製品	14	107.0%	木工関連は昨年度からの好調を維持し、コロナ禍前のレベルへと回復していくと予想。	
家庭用	28	101.0%	巣ごもり需要が定着してコロナ禍前を上回る状況は継続するが、ほぼ前年並みを予想。	
輸 出	56	100.9%	部品供給遅滞の影響や原材料の価格上昇など不安材料はあるが、ほぼ前年並みを予想。	
路面標示	65	99.4%	次年度公共工事の予算は増額が見込まれるが、路面工事はほぼ現状維持を予想。	
その他	79	100.6%	ほぼ前年並みを予想。	
合 計	1,226	104.5%	原料価格の高騰、半導体その他の部品供給問題等の不安要素も多く予想は困難であるが、コロナ禍からの反動や需要家の消費マインドの回復により増加基調となると期待。	